第4回　ライフスタイルの多様化等に関する懇談会　委員の主な意見

国土交通省

1. 総論

○　訪問するとキーマンがいる、特定の時期にイベントがあるなど、定点を定めることにより、地域への意識が高まり、関係人口の定着につながる（固着性）

○　「人」「場」「仕組み」の多様性を活かしつつ、効率性を過度に追求しない、緩やかでオープンなシステムが望ましい（柔軟性）。

○　取組の持続可能性を確保するためには、経済性を確保することが必要である。

2. つながりサポーター、関係案内人などの「人」

○　組織や役職等で役割を分担するのではなく、各プレーヤーが持つ個性を棚卸しした上で、それぞれの特徴を活かした連携・協働が重要（必要なスキルを持つ人を把握する）。

○　都市側の関係案内人等と地域側の関係案内人等の連携・協働が重要となり、関係案内人同士のマッチングが必要。

○　地域側の関係案内人等には、地域外を経験した人が適任な場合が多く、地域側に働きかけを行い、地域の人の背中を押すことにより、関係人口と地域をつなげるとともに、リスクを許容しリーダーシップを発揮することが求められる。

3. バーチャルを含む、つながりを創るための空間、関係案内所などの「場」

○　物理的な場は予め整っている必要はなく、空き家、廃校等を活用し、地域と関係人口が一緒につくりあげていくことが重要な場づくりとなる。

○　カフェや食堂のように自然に人が立ち入る場所など、（外部の人が入りやすい）地域に従前からある資源を活かし、地域の魅力を自然に発信していくことが重要。

4. つながりを創り出すイベント、企画、情報発信などの「仕組み」

○　SNS上に形成されるオンラインコミュニティは、人々が共通した価値観でつながるものであり、人が地域に赴くことのハードルを下げることが期待できる。

○　信頼関係を構築することにより“つながり”を創出し、お互い共創したいものを創り出していける環境（win-winな関係を構築できる環境）が重要。